

泣き方の類義表現の分類 ―動作主の特性に着目して―

宿利由希子（しゅくりゆきこ）

1. はじめに

意味が同じまたは似ている表現は類義表現と呼ばれ、その使い分けに関する書籍や辞典、インターネットサイトは数多く存在する。その一方、動作主の人物像と使用表現の印象の不一致に関する指摘とともに、類義の別表現の使用についてその適切性が主張されることがしばしばある。たとえば、宿利（2021）は英文学『クリスマス・キャロル』の原文に見られる泣き方の表現「sob（むせび泣く、泣きじゃくる、しゃくり上げる、鳴咽する）^{注1}」が、翻訳者によって「すすり泣く」と和訳されたり「むせび泣く」と和訳されたりすることを報告している。

では、一般的に類義表現はどのように使い分けられているのであろうか。動作の類義表現に目を向けると、従来、動作の強弱や方向性、感情的含みの有無、文体の違い、地域的・社会的な語の分布の違いなどが使い分けのマーカーとされてきた。また、動詞の主体は、「さえずる」のは鳥、「いななく」のは馬といったいくつかの例外を除き限定されず、「集まる」「～し合う」など複数の主体を要求するもの以外では、主体の人称や数は分類の要因ではないと考えられてきた（国際交流基金 1981）。

これに対し本研究は、動作の類義表現の使い分けのマーカーとして、年齢や性別、数といった動作主の特性が含まれることを示し、さらに類義表現と動作主の年齢と性別の関係をマトリクス図で示すことを目指す。具体的には、『現代日本語書き言葉均衡コーパス中納言（以下、BCCWJ）』を用い、「すすり泣く」「しゃくり上げる」「しくしく（と泣く）」「むせび泣く」という4つの泣き方の表現とそれらの動作主の関係を探る。「すすり泣く」は「すすりあげるようにして泣く。しゃくりあげて泣く」様子を、「しゃくり上げる」は「声や息を何度も激しく吸い上げるようにして泣く」様子を、「しくしく」は「声をひそめて弱々しく泣く」様子を、「むせび泣く」は「息が詰まるほど激しく泣く。声をのみこむようにして泣く」様子を表す。これらの表現は、英語では「sob」に相当する類義表現である。

2. 先行研究における類義表現の分類

2.1 動作の類義表現の分類

類語辞典や日本語学習の語彙教材など、日本語の類義表現を分類した先行研究は多い。泣き方の類義表現を見ると、「すすり泣く：声を抑えて、鼻をすすり上げながら泣く」「むせび泣く：のどを詰まらせて、震えるように激しく泣く」など、その多くが泣き方の強弱

や様子の異なりに着目した分類となっている（中村 2020; 深谷 2009; 山田他 2008 他）。

国際交流基金（1981）は、類義表現のうち類義語を「a. 意味の違うもの」「b. 語のレベルの違うもの」「c. 分布の違うもの」「d. 感情的な含みの有無」の4つに分けている。これらは独立したものではなく、「a. 意味の違うもの」でありかつ「c. 分布の違うもの」でもあるという場合もある。細かい分類と主に動詞の例を表1にまとめる。

表1を見ると、先の類語辞典における泣き方の類義表現の記述は、「a. 意味の違うもの」に関する分類であることがわかる。また「d. 感情的な含みの有無」の「うろつく」「どなる」は話し手や書き手が動作主や動作自体に悪印象を抱いている例であり、本研究が射程とする動作主の特性に最も近いと考えられる。しかしながら、「感情的な含み」が動作主の年齢や性別、数をも含むかは定かでない。

表1 国際交流基金（1981）における動詞の類義表現の分類

a) 意味の違うもの	
i 一方が他方に含まれるもの	「建てる：建築する，建造する，建築する，建立する」他
ii 部分的に重なり合うもの	「あがる：のぼる」「さける：よける」「ふれる：さわる」他
iii 重ならないが，意味が非常に近く，日常混同されやすいもの	※動詞の例なし，名詞の例「あられ：ひょう」「駐車：停車」
b) 語のレベルの違うもの	
i 日常語：文章語	※動詞の例なし，名詞の例「歯医者：歯科医」「両方：双方」
ii 日常語：俗語	「おいかける：おっかける」「びっくりする：たまげる」
iii 日常語：雅語	「おこる：怒る」
c) 分布の違うもの	
i 地域によって違うもの（＝方言）	「ふかす：むす」「太る：こえる」
ii 年齢によって違うもの	① 一般：老人 ※動詞の例なし，名詞の例「せっけん：シャボン」 ② 一般：幼児 「おぶさる：おんぶ」
iii 所属する社会によって違うもの	※動詞の例なし，名詞の例「病人：患者（一般：医師）」
d) 感情的な含みの有無	
「歩きまわる：うろつく」「さけぶ：どなる」	

2.2 類義表現の関係を示す図表

類義表現の関係性を視覚的に示そうという試みはこれまでも行われている。類語研究会（1991）や市川（2018）は、意味や分布の違いを説明した上で、いくつかの例文においてその表現の使用が適切な場合「○」、不適切な場合「-」、あまり一般的でない場合「△」で示す表を付記している

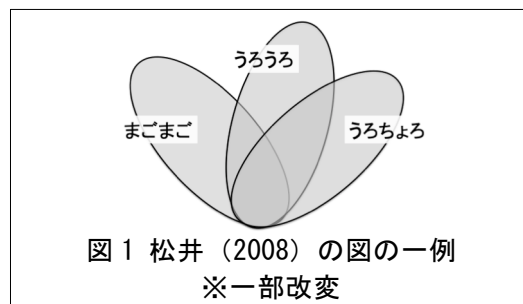
（表2参照）。松井（2008）も表1のような視覚的情報に加え、類義表現同士の関係性を楕円の重なりによつ

表2 類語研究会（1991）の表の一例 ※一部改変

	うろつく	ぶらつく	さまよう	さすらう
知らない土地を～	○	○	○	○
アメリカ大陸を～	-	-	○	○
銀座を～	○	○	△	-
怪しい男が～	○	-	-	-
出口を求め～	-	-	○	-

で示している（図 1 参照）。

しかしながら、これらは使い分けのマーカ―として意味や分布の違いに着目するものがほとんどであり、動作主の特性を示すものは見当たらない。また、これらの図表からは、その表現が当該例文においてどの程度適切と考えられているのか、適切性や使用傾向の程度を推し量ることは難しい。



3. 調査概要

調査では、『BCCWJ』^{注2}を用い、「すすり泣く」「しゃくり上げる」「しくしく（と泣く）」「むせび泣く」という 4 つの泣き方の表現を考察対象に、動作主の年齢、性別、数を調べた。調査対象には、「すすり泣く」「しくしくと涙を流す」などの動詞および動詞句のほか、「すすり泣き」「しゃくり上げ」「むせび泣き」のような名詞も含めた。表現が現れる前後 500 語の文脈を抜き出し、動作主は年齢、性別、数と、その表現がどのような場面で使用されているかを観察した。その際、「胃がしくしくと痛む」「あごをしゃくり上げる」のように、明らかに泣いていないことがわかるものは除外した。また、「すすり泣く」「嘸り泣く」「しくしく」「シクシク」のような表記の別は統一した。動作主の年齢と性別の判断について、前後 500 語の文脈から読み取れない、または動作主が複数名おり年齢と性別が特定できない場合は「不明」とした。年齢は、便宜上中学生頃までを「子供」、高校生頃から「若年層」、20 代後半以降を「成年層」、「老人」や「老女」など老齢であることが明記されている場合「老年層」とした。なお、動作主が人間以外の場合、擬人化されているものや、登場人物の心情を表している可能性のあるものは調査対象とした。後者の例を(1)に示す（以下、引用部分の動作主と泣き方の表現に下線を付す）。

- (1) 「ヴァイオリンの音がすすり泣きながら出てきた。地球をとりまく大気が旋律をふるわせる」(278)。

[山形和美（1993）『グレアム・グリーンの文学世界』研究社出版]

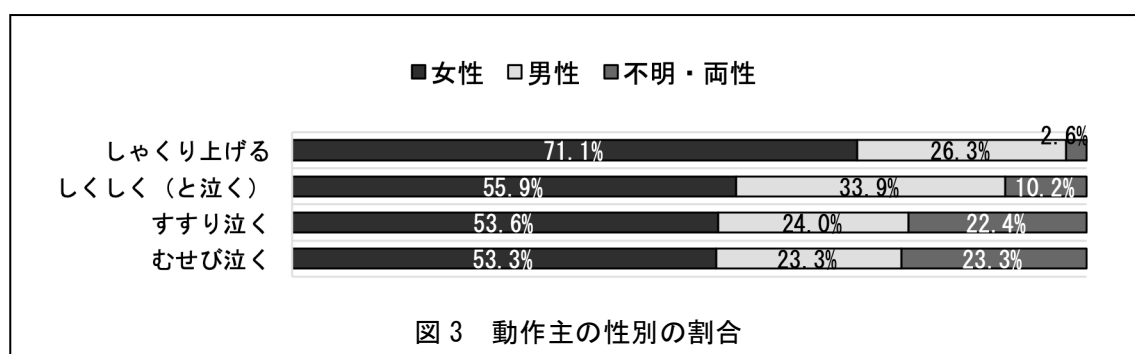
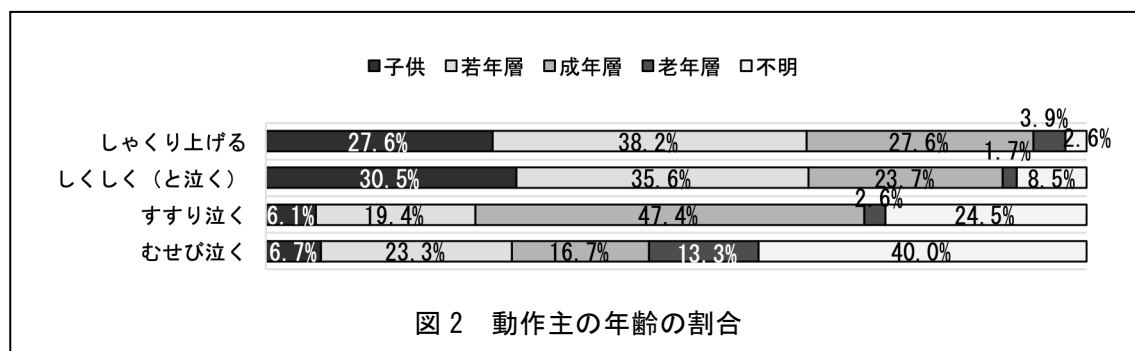
4. 調査結果

調査の結果、4 つの泣き方の表現の主体がいずれも女性に偏っており特に「しゃくり上げる」は女性的な表現であること、年齢が使い分けのマーカ―になっていることが明らかとなった。また、「すすり泣く」「しくしく（と泣く）」「むせび泣く」は、「しゃくり上げる」に比べ動作主が複数である場合が多かった。このことから、泣き方の類義表現に関しては、

主体の年齢，数が使い分けの要因になっている可能性が示されたと言える。

『BCCWJ』の観察から，「すすり泣く」は 196 件，「しゃくり上げる」は 76 件，「しくしく（と泣く）」は 59 件，「むせび泣く」は 30 件抽出された。「不明（・両性）」の少ない表現順に，それぞれの動作主の年齢，性別の割合を図 2，3 に示す。「しゃくり上げる」の動作主は，年齢は若年層が最も多く，子供と成年層が同数であり，老年層はほとんど観察されなかった。性別は他の表現に比べて女性の割合が高い。「しくしく（と泣く）」の動作主は，年齢は若年層，子供，成年層の順に多く，老年層はほとんどなかった。性別は女性が多いが，男性の割合が他の表現より多くなっている。「すすり泣く」の動作主の年齢は，成年層，若年層の順に多く，老年層と子供はほとんど観察されなかった。性別は女性が多かった。「むせび泣く」の動作主の年齢は，若年層，成年層，老年層，子供の順に多く，老年層の割合は他の表現に比べ高かった。性別は「すすり泣く」とほぼ同じ割合であり，「すすり泣く」と「むせび泣く」は動作主の年齢により使い分けられている可能性が見て取れる。

また，「しくしく（と泣く）」「すすり泣く」「むせび泣く」は，性別・年齢どちらにおいても「しゃくり上げる」に比べ「不明」が多かったが，これは動作主が「周りの人」や「聴衆」のように複数であることが多かったためと考えられる^{注 3}。先行研究では，特定の語彙以外は主体の数が類義表現の使い分けのマーカーになることはないと考えられてきたが，主体が複数の場合使いにくい表現が存在することが示されたと言えよう。『BCCWJ』で観察された 4 つの表現の具体例を(2)～(5)に示す。(2)の「しゃくり上げる」の例は「アキラ」という少年が，(3)の「しくしく泣く」は「毒あるかれら」が，(4)の「すすり泣く」は「聴衆」



が、(5)の「むせび泣き」は「周りの人」が動作主となっている。

(2) アキラの声が、なみだ声に変わった。だが、今度のは明らかに作られたなみだ声だった。わざとらしいしゃくり上げの音も時々まざる。

[いとうひろし (2005) 『あぶくアキラのあわの旅』 理論社]

(3) しかし、毒あるかれら〔中略〕は、神や悪魔に媚びるように、君にむかって媚びを呈する。神や悪魔の前でするように、君の前でしくしく泣く。

[ニーチェ・F. W (著) 手塚富雄 (2002 訳) 『ツァラトゥストラ』 中央公論新社]

(4) 一曲が終わらないうちに聴衆はすすり泣きを始め、涙を落とすほどであった。

[波出石実 (2002 編) 乾一夫・内田泉之助 (著) 『唐代伝奇』 明治書院]

(5) 無我夢中だったに違いないが、不思議なことに、このとき、周りの人の静かな涙がむせび泣きに変わったのを覚えている。

[森山ふじ子 (2001) 『二十二歳永遠に』 文芸社]

以上を踏まえ、泣き方の表現と動作主の年齢、性別の関係をマトリクス図 (図 4) に示す。

便宜上、年齢は「子供」5 点、「若年層」1 点、「成年層」-1 点、「老年層」-5 点、性別は「女性」1 点、「男性」-1 点として図 2、3 に示した動作主の特性の割合と掛け合わせ、年齢を縦軸 (若い→年老いた)、性別を横軸 (女性的→男性的) とし、それぞれの表現をプロットした。

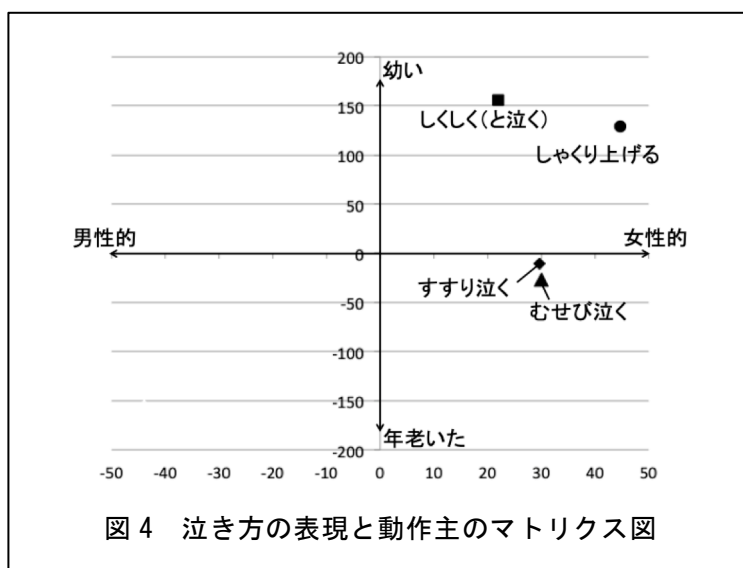


図 4 泣き方の表現と動作主のマトリクス図

図 4 から、4 つの泣き方の

表現に関して、動作主の性別が女性に偏っており特に「しゃくり上げる」がより女性的であること、年齢が使い分けの要因となっていることが容易に読み取れる。このようなマトリクス図を用いれば、より稠密性の高い項目に関しても、当該文脈においてどの程度その表現の使用が適切／不適切か、その使用傾向の程度を示すことが可能となる。

5. まとめと今後の課題

本研究では、泣き方の表現に着目し、動作の類義表現の使い分けのマーカーとして、年

齢や性別、数といった動作主の特性が含まれることを示し、類義表現と動作主の特性（性別と年齢）の関係をマトリクス図で示した。本研究の結果は、これまで注目されてこなかった動作主の年齢や性別、数といった類義表現の分類のマーカ―に光を当てるものである。また、マトリクス図による類義表現と動作主の特性の関係を視覚的に示す試みは、日本語学習者への類義表現教育や、語彙の歴史的な変化の把握にも役立つと考えられる。

とはいえ本研究には、動作主の特性を書き言葉コーパスのみから抽出している点や、マトリクス図作成時のプロット方法の妥当性などに課題が残った。後者について、本研究では便宜上「若年層」1点、「老年層」-5点のように配点、プロットを行ったが、今後母語話者の語感との整合性などから、マトリクス図の妥当性を高める工夫が必要となろう。

謝辞 本研究は JSPS 科研費 JP20K13056 の助成を受けたものです。

注

- ¹ 英単語の意味は『ジーニアス英和辞典第3版（大修館書店）』および『プログレッシブ和英辞典第3版（小学館）』、日本語単語の意味は『デジタル大辞泉（小学館）』による。
- ² 『BCCWJ』は、書籍をはじめ、雑誌、新聞、白書、ブログなどの1億430万語からなる大型コーパスであるが、本調査では書籍、雑誌、新聞のデータのみ用いている。
- ³ 動作主が複数だったのは、「しくしく」は5例（8.5%）、「すすり泣く」は34例（17.3%）、「むせび泣き」は5例（16.7%）、「しゃくり上げる」は1例（1.3%）のみであった。

参考文献

- 深谷圭助（2009）『例解学習類語辞典 似たことば・仲間のことば』小学館
- 市川保子（2018）『日本語類義表現と使い方のポイント 表現意図から考える』スリーエーネットワーク
- 国際交流基金（1981）『教師用日本語教育ハンドブック⑤語彙』国際交流基金
- 国立国語研究所「現代日本語書き言葉均衡コーパス中納言（BCCWJ）」[<https://chunagon.ninjal.ac.jp/bccwj-nt/search>]2021年3月22日最終確認。
- 松井栄一（2008）『ちがいがわかる類語使い分け辞典』小学館
- 中村明（2020）『類語ニュアンス辞典』三省堂
- 宿利由希子（2021）「キャラと翻訳ー登場人物たちを描写することばの変化ー」『日本語学』40(1), 明治書店, pp. 92-101.
- 類語研究会（1991）『正しい言葉づかいのための似た言葉使い分け辞典』創拓社
- 山田進, 柴田武, 加藤安彦（2008）『講談社類語辞典』講談社